

13 膀胱痛症候群に対して

猪苓湯合四物湯が有効であった 1 例

三重大学大学院医学系研究科 腎泌尿器外科¹⁾、
すずか泌尿器科・腎クリニック²⁾

井上 貴博¹⁾、矢崎 順二²⁾

緒言

間質性膀胱炎・膀胱痛症候群(IC/BPS)の多くは、膀胱に関連する疼痛、圧迫感または不快感と尿意亢進や頻尿などの下部尿路症状(過知覚膀胱症状と総称)を訴えて受診する。膀胱鏡検査でハンナ病変を認める症例はハンナ型間質性膀胱炎または間質性膀胱炎(ハンナ型)(HIC)、ハンナ病変のない症例は膀胱痛症候群(BPS)と定義される。今回、半年間様々な治療を施されるも下腹部痛・膀胱痛が改善せずに来院された症例に対して猪苓湯合四物湯が有効であったBPSを経験したので報告する。

症例

70歳台女性、尿が貯まると下腹部痛が半年くらい前からあり、複数の医療機関でNSAID、抗菌剤、牛者腎気丸、猪苓湯、八味地黄丸、苓桂朮甘湯、ベオーバなどの処方を受けるも症状改善せずに受診された。痛みで夜も眠れないことがあるとの訴えであった。やや痩せ型で、皮膚は乾燥しており虚証と判断した。腹診では胸脇苦満なく、小腹不仁は軽度で、左下腹部に軽い瘀血の症状あり。超音波・検尿所見では特に異常なし。受診時かなり不安感とこれまでの経緯に対する不満感が強かったので、気虚・心火旺・淋症の証と判断して清心蓮子飲を5g分2処方した。6週間後再診されたが、症状改善ないため、HICの除外のために膀胱鏡を施行。200mlの生理食塩水を膀胱内に入れるも、あきらかなハンナ病変や点状出血も認めなかった。また尿細胞診も陰性であった。そこで瘀血を認めたことから血虚の証もあると判断し、血虚の基本方剤である四物湯を含む猪苓湯合四物湯5g分2に変更したところ、4週間後付き添いの家族の来院もなく、晴れやかな表情で症状が軽快したことを報告してくれた。

考察・結語

BPSに対する漢方薬の有効性に関する高いエビデンスはないが、ときに著効する例もあるので、BPSに対する漢方処方の知識を泌尿器科医は持つておくべきと考える。BPSに対する漢方薬についてすこし考察を加えて発表する。